「お父さんの命を返してください」

対資本交渉の席で　たまりかねて叫んだ遺族

先のCO・遺族要求をつらぬくために、二十人の上京団が抗議に、要請に、あるいはビラ配りに中央で大活躍したことはだれでも知っていることですが、対会社交渉では、余りにも無責任な会社の態度にたまりかね、次つぎに遺族たちは「お父さんの命を返してください」、とさけびました。次は、その一部です。

永江美由紀さんのうったえ

私は、大爆発で殺されました三川鉱坑内機械工一一三六九番の永江渡の妻で、美由紀（56歳）と申します。

主人は、勤続年数十七年と九カ月でした。退職金が六十六万。労災補償が九十五万。それにたった四十万円の弔慰金があり、全部合わせても二百万そこそこでした。

この命の代償とでもいう金を手に、必死になって四人の子どもを育ててきました。おかげで子どもたちはどうにか成人したのですが私はとし老いてから苦労がたたって、体がガタガタになり、蟬の抜け殻のようです。今朝もここへやってくる階段が上がれず、中西さんに押し上げてもらってきました。

低血圧で上が九十、下が七十四で頭痛がひどく、職にもつけません。三万そこらの年金の半分は治療費で、主人の命の代償にもらった金も、今では借金にかわりました。本気で自殺を考えたことも、少くありません。

やっと、殺されたお父さんの恨みもはらさず死んでなるものか、と心を入れかえ歩いてきました。

あのとき栗木社長は、手を取らんばかりにして「遺族には苦労はかけない」、と約束しました。その後三井は三池で百六人も労働者を坑底で殺しましたが、滝原さんあなたは、その三池から出世して本店にきたのです。

元気で働きに出かけていった、あの朝の主人を返して下さい。

梶山シゲ子さんのうったえ

私は遺族の梶山シゲ子です。

主人は炭鉱で働くうちにけい肺におかされ、二十三年の三月十二日、まるで狂うようにして死んでゆきました。そのとき長女が小学四年、長男が小学一年、末っ子は誕生したばかりだったのです。

以来、三十五歳だった私の、三人の子どもを抱えての苦労が始まったのです。

末っ子をつれて、三川鉱の自転車置場の番にやとってもらい、後選炭機勤務、浴場の番台勤務と変りました。

ところが二十八年に私に突然、クビの通知があったのです。主人は公傷死亡。だからこんなことは絶対にない、と信じていた会社から裏切られたのです。

以後、土方もしました。やっと鉱山学校を出した長男が、こんどは二十二歳で、大爆発により殺されました。

主人はけい肺で狂い死に、自分は首を切られ、女手一つで必死に育てた長男は大爆発で殺されたのです。

思いますと、早や私は六十三歳。その肩に、まさに三重苦を背負って生きています。

中島マツエさんのうったえ

誘致工場の、縫製工場に働いている者です。

あの日から十三年間、朝の八時十五分より夕方の五時まで、ベルの合図によって仕事をしております。休憩が、その間四十五分間あるだけですよ。

動力ミシンが一分間に六千回も回転するんですよ。

モーターの加熱で、仕事場の暑い事。毎日のように、三十三度から三十五度にもなりますよ。誘致工場どころか、囚人工場といった方がよいですよ。

仕事はというと、その日その日欠かさず何を何枚したか、を班長に提出せねばなりません。若い人達と一緒の仕事でとても重労働ですが、私はそれを十三年間してきました。三井鉱山に入替え採用になっていたら、これほどの苦労はなかったと思います。

それに、十三年間働いてきたのに、これだけの給料しかもらっていません。見て下さい。（といって五十一年度一カ年間の給料袋を会社幹部の前につきつけてやり）貯金をしているではないか、といわれると思いますが、前社長が臨時昇給を強制的に貯金させたのです。

これで、子供三人育ててきました。

ほんとに死んだお父さんに済まない、と思っていますが、たったこれだけの退職金と労災補償しかもらっていません。見て下さい、（とその明細書を出して見せ、つづけて）親戚から借金してでもこの金は返しますから、お父さんを返して下さい。それだけが、私のお願いです。返して下さい。

東京の街角で、ビラを配って訴える上京団。

昨年以来亡くなられた五人の原告団員の方――松本忠義さん、永野利男さん、蒲池諌男さん、高口弘さん（以上CO患者）、池上ミジュさん（遺族）の初盆を迎えました。

原告団としては役員が二手に分かれてお詣りしましたが、林田さん、岩屋さん、それに私の三人は池上さんと蒲池さんの両家をおたずねしました。

先にお詣りした池上さん宅では、年老いたお父さんが広い家に淋しそうで、「せめて子供でもいてくれればな―」とぼしておられました。

蒲池さん宅には、CO患者家族の中尾さんもさそい、それに組合の合志さんも一緒に詣りましたが、夕方の六時過ぎなのに家の中は電灯もつけられていずに薄暗く、一番下の娘さんが一人仏さんの前で食事をしておられました。聞けばお母さんは、お盆の買物にいかれて留守とのこと。前の日まではきっと働きに出られていたのでしょう。

初盆にお詣りして

CO患者家族の会会長　石原まさ子

CO患者家族の会会長の蒲池諌男さんは普段こそおとなしい人でしたが、お酒が少しはいるとすっかり人が変ってしまい奥さんや子供さんたちを困らせておられたものです。今から思うと、お酒も、中毒症の苦しさをまぎらすためだったのでした。

でも、亡くなられて見て初めて父親のないことの淋しさを、家の中いっぱいに感じました。どうか奥さん、子供さんがんばってください。

×

なお五人の方の死没月日は次の通りです。

池上ミジュさん　昨年八月二十一日

松本　忠義さん　昨年九月十二日

永野　利男さん　昨年九月二十六日

蒲池　諌男さん　昨年十二月二十一日

高口　弘さん　今年六月十日

×

なおCO患者家族の会は、初盆を迎えられたご家庭に御仏前をお贈りしたが、それに対して、今「熊本県鮑田郡鮑田町大字会富、一七三八―三」にお住まいの松本千代子さんから、次のお礼状が寄せられた。

「本日は心温い御香料お送り下さいまして、ありがとうございました。亡き主人も、どんなにか喜んでいることと信じます。

ことあるごとに、こんな時にはこんなことをしていた、あんなことをいっていた、と思い出し、あまりにも早く逝ってしまった主人をうらめしく思い、悲しく思い、一人残された寂しさについ涙する日もございます。

亡くなった当時は放心状態で皆様方に失礼なこともあったと思い、後悔しております。

原告団の皆さんにも、どうかよろしくお申し伝え下さいますようお願いします。本当に、ありがとうございました」。

座り込みのこと

CO患者家族　開田美千子

私達CO患者家族の会役員六名は、石原さんと後藤さん二名を上京団として送り出したあと、山元で留守を守る私たちは塚本さんをはじめ、三川鉱正門前での座り込みとともに、ビラ配り、組合員皆さんとの交流、ニュースカー宣伝、労働基準監督署抗議などで頑張ることを決意しました。

私は、座り込み第一日目に参加するため自転車で走りました。

テントを張ってつくられた小屋の中は、太陽のひざしを受けてひどい暑さでした。

「ご苦労さまでした。暑かったでしょう」と、お互いに挨拶を交わしながら座ろうとして、ふと、爆発当時今私が座る場所で、生きているやら、死んでいるのやらまったくわからないままの主人を、何時間となく待ち続けたときのことが思い出されました。そして、余りにも無責任な会社への腹立たしさを新たにしたのです。

炎天下の座り込みに参加された皆さんご苦労さま。勝利の日までお互いに頑張りましょうと自分の心に誓いました。

せめて冷たい麦茶なりと十分飲んで下さい、との気持で、座ったり茶沸かしに走ったりしているうちに時間は過ぎてゆき、あたりはいつしか夕暮れを迎えているのに気がついた私でした。

上京団同じ気持で抗議する

竹原のず太い顔のにくちしさ

上京団三井の前でビラ配り

労働省交渉の間座り込む

上京団徹夜回答待ちのぞむ

×　×

がんばりましたけれど……

一遺族

上京団の皆さん、暑い中大変ご苦労様でした。

留守部隊も、要求貫徹のために精一杯がんばりました。

上京団の中央行動に合わせ、三川鉱正門前で座り込みが開始されましたが、「これでだめなら」と三池縫製とアソニットの両工場の正門前でもテントが張られ、揃って座り込みに入りました。とても暑い日でしたが、さらに町の中をビラを配ってかけ回ったりしてがんばり抜きました。

中央からの情報がはいらず、座り込んでいて少々がっかりした気持でした。山下書記次長のお話しで、交渉次第では後ひとがんばりやることを心にきめました。

でもこんなことを毎度毎度くり返さなくても、ほかによい方法はないものでしょうか。三井鉱山の責任ある態度がほしいものです。

原告団消息

8月3日　原告団編集会議。

この日ニュースカー情宣。（緑ケ丘地域）

上京団、三井鉱山に対して抗議行動。（なおその玄関前でビラ配り）

〃　4日　大牟田労働基準監督署に対する要請行動。

ニュースカー情宣。（新港地域に対し）

上京団、社会党本部をたずねて行動への支援を要請。また、阿具根参議院議員にも同様要請。

〃　5日　事業所関係へビラ配り。

ニュースカー情宣。（臼井、野添地域）

上京団、三井鉱山玄関前でビラ配り。

三井鉱山との第二回交渉。要求に一次回答。

〃　6日　大牟田労働基準監督署へ要請行動。

遺族、両誘致工場門前で座り込む。

上京団、労働省前でビラ配り。

この日労働省との交渉へ。

三井鉱山玄関前でビラ配り。

三井鉱山と第三回交渉。

〃　7日　三井鉱山との交渉、徹夜で行なわれ、この朝一部了解点に達す。

〃　8日　三川鉱正門前で決起集会。集会後、座り込みを終る。

上京団、この夜帰山。

〃　10日　原告団役員会。（中央交渉経過を報告）

〃　12日　原告死亡者の初盆に参拝。（CO患者四人、遺族が一人）

〃　13日　傷病補償年金受給者家族集会。（対労働省交渉の経過を報告）

〃　20日　原告団編集会議。組織部会議。（中央交渉経過報告と、今後の取り組みにつき）

〃　26日　原告団役員会議。

なお八月四日、田中泰久さん（万田作業所）が蓮沢病院（玉名）に再入院したほか、同月某日松藤末雄さん（選炭場）が久保田病院に、同月二十六日松本博さん（新港作業所）が熊大病院に、同月某日岩崎久子さん（アソニット）が荒尾市民病院にに、それぞれ入院。一日も早く快癒されんことを祈っておく。

×

座り込み

―川柳―

坂井笙一

子沢山見かねた祖母の座り込み

座り込み道行く人も会釈する

旧交を暖め合ってる座り込み

差し入れに同志が見せた座り込み

（筆者は万田作業所勤務）